

MOL INTERIM REPORT

2024年度 中間報告書

[2024.4.1～2024.9.30]

MOL
商船三井

証券コード:9104

特集

クルーズ事業、2隻体制が始動

12月、「三井「MITSUI OCEAN FUJI」オーシャンデビューフジ

- REPORT 1 低炭素燃料の活用で足元からGHG排出を削減、万博で示す未来の船
- REPORT 2 地域主導でプロジェクト進行、各地でFSRU傭船契約やオフィスビル開発
- REPORT 3 人のつながりと創造を生む空間、新社員食堂&多目的施設がオープン

2024.NOV



株主の皆様へ



代表取締役
社長執行役員

橋本 剛

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、2024年度中間期（第2四半期累計期間）の連結業績をご報告するにあたり、ご挨拶申し上げます。

2024年上期はコンテナ船事業やエネルギー事業、自動車船事業での堅調な輸送需要により利益を積み上げ、予想を上回る業績を達成することができました。また、親会社株主に帰属する当期純利益予想を3,500億円に上方修正しました。加えて、重要な経営指標として掲げるROE 9～10%を意識し、10月末に1,000億円を上限とした自己株式取得を発表いたしました。

社会の幅広い皆様に支えられ、商船三井グループは2024年4月に創業140周年を迎えました。この節目の年において、当社はグループ経営計画「BLUE ACTION 2035」に基づき、さまざまな取り組みを進めております。安定収益が期待できるエネルギー事業や不動産事業への重点的な投資を続けているほか、12月には新クルーズ船「MITSUI OCEAN FUJI」が就航を開始します。また、環境負荷の低い代替燃料船の発注を進めるとともに、風力推進装置ウインドチャレンジャーを新たにLNG船へ搭載することも決定し、環境戦略をさらに推進しています。さらに、インドでの優良オフィスビル開発やポーランド・シンガポール向け浮体式LNG貯蔵再ガス化設備(FSRU)への投資を行い、地域戦略の成果をあげています。

当社は、グローバルな社会インフラ企業として、引き続き安定収益型事業への投資と海外での事業開発を積極的に進め、中長期的な企業価値向上とサステナブルな成長を実現してまいります。

株主の皆様には引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2024年11月

業績推移

※単位：億円

		2024年3月期		2025年3月期	
		中間	通期	中間	通期（見通し）
連結	売上高	7,901	16,279	9,006	17,900
	営業損益	493	1,031	891	1,530
	事業損益（注）	1,053	1,950	2,541	3,590
	経常損益	1,545	2,589	2,490	3,650
	親会社株主に帰属する 当期（中間）純損益	1,507	2,616	2,466	3,500
為替レート（期中平均）		¥138.71/\$	¥143.43/\$	¥153.71/\$	¥148.68/\$ （下期前提）
船舶燃料油単価（期中平均）		\$610/MT	\$621/MT	\$625/MT	\$480/MT<HSFO> \$600/MT<VLSFO> （下期前提）
配当金		110円/株	220円/株	180円/株	300円/株

（注）営業損益+持分法投資損益

セグメント別

※単位：億円、▲は損失

		2024年3月期 中間	2025年3月期 中間
ドライバルク事業 ▶ドライバルク船（電力燃料輸送船を除く）	売上高（注）	1,898	2,135
	経常損益	321	90
エネルギー事業 ▶電力燃料輸送船／▶タンカー ▶風力／▶オフショア ▶液化ガス（LNG船／その他）	売上高	2,149	2,774
	経常損益	376	627
製品輸送事業 ▶コンテナ船 ▶自動車船 ▶港湾・ロジスティクス	売上高	2,992	3,157
	経常損益	716	1,800
	うち コンテナ船 事業	売上高 280	318
	経常損益	333	1,309
ウェルビーイングライフ事業 ▶不動産 ▶フェリー・内航RORO船 ▶クルーズ船	売上高	522	563
	経常損益	49	94
	うち 不動産事業	売上高 199	216
	経常損益	45	83
関連事業 ▶曳船 ▶商社等	売上高	233	270
	経常損益	12	12
その他	売上高	105	104
	経常損益	26	24
調整（消去・全社）	売上高	—	—
	経常損益	42	▲159

（注）「売上高」は外部顧客に対する売上高を表示しています。

売上高構成比

ドライバルク
事業
23.7%

エネルギー
事業
30.8%

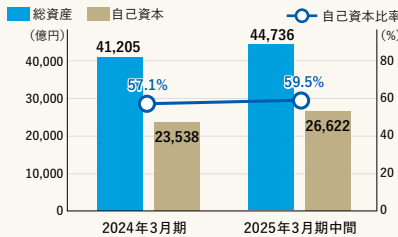
製品輸送
事業
35.1%

ウェルビーイング
ライフ事業
6.3%

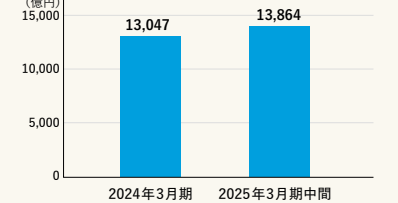
関連事業
3.0%

その他
1.1%

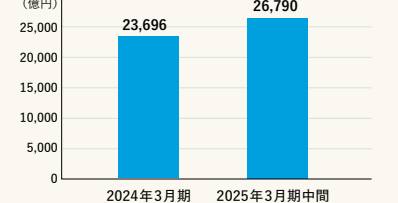
総資産、自己資本、自己資本比率



有利子負債残高



純資産



外部信用格付

	種 類	格付 （見通し等）
日本 格付研究所 （JCR）	長期発行体格付	A+ （安定的）
格付投資 情報センター （R&I）	発行体格付	A （安定的）
Moody's	コーポレート・ ファミリー・ レーティング	Ba2 （ポジティブ）

特集

クルーズ事業、2隻体制が始動
12月、「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」デビュー

当社は2023年度に非海運事業やB to C事業（一般消費者向け事業）を中心とするセグメント「ウェルビーイングライフ営業本部」を新たに設立しました。この事業セグメントにおける大きな取り組みの一つがクルーズ事業です。

2023年10月に当社グループの商船三井クルーズ社において、新クルーズブランド「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{クルーズ}CRUISES」を発表し、米国のクルーズ船社から購入したクルーズ船を新たに「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」と命名しました。ブランド名には、日本の海運の歴史を築いてきた商船三井の誇りと、青い海から始まる未来への希望、お客様により親しみを持って長くご愛顧いただけるようなクルーズを育てたいという思いを込めています。2024年9月28日には「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」の引き渡しを受け、現在、就航に向け改装を進めています。12月からは、現在運航している「にっぽん丸」とともに、2隻体制でより多彩なクルーズを提供し、「日本の美しい船旅」をコンセプトに、これまで培ってきた心からのおもてなしをさらに追求していきます。

「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」は、すべての客室をスイートルームとするラグジュアリー仕様のクルーズ船です。

お食事の選択肢も豊富に取り揃え、その日の気分に合わせて選ぶことができます。フロント機能やコンシェルジュサービスを集約した広々としたラウンジや、スパやサウナなどのウェルビーイング施設も充実しています。

「にっぽん丸」のクルーズでは3〜4泊程度と短く気軽な船旅を、「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」のクルーズでは、全クルーズが海外への寄港を含んだ4泊以上の余裕を持った日程で、港も船内もじっくりとご満喫いただける船旅をご用意しています。

どちらの船も2万〜3万総トン級というクルーズ船では小型船で、大型船では寄港できない港や、日本の美しい自然がそのままに育まれている土地などを訪れることができます。また、日本のお客様のみならず、アジアを中心とする海外からのお客様にも当社のクルーズを選んでいただけるよう「上質な日本」を感じるクルーズ体験の提供を目指していきます。

当社はクルーズブランド「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{クルーズ}CRUISES」をさらに拡大していく予定です。「にっぽん丸」「^{三井}MITSUI ^{オーシャン}OCEAN ^{フジ}FUJI」に加え、新たなクルーズ船の投入を目指し検討を進めています。



^{三井} MITSUI ^{オーシャン} OCEAN ^{フジ} FUJI (イメージ図)



フライン ダイニング
上: 北斎 FINE DINING (イメージ図)
下: フランス料理の巨匠、三國清三シェフ監修のメニュー (イメージ図)

REPORT 1

低炭素燃料の活用で足元から GHG 排出を削減、万博で示す未来の船

当社グループでは、経営計画「^{ブルー}BLUE ^{アクション}ACTION 2035」の主要戦略の一つである「環境戦略」に基づき、船舶の動力源としてクリーンエネルギーの導入を進めています。2020年代中にネットゼロ・エミッション外航船の運航開始を目指していますが、その技術やインフラが成熟するまでの間も、足元から取り組める低炭素の燃料であるLNGやメタノールを利用することで温室効果ガス(GHG)排出量を減らしていきます。株主の皆様に乗船いただける船では、当社グループの商船三井さんふらわあが運航するフェリー4隻にLNG燃料の導入を進めています。また、「ウインドハンタープロジェクト」と称し、風の力を掴み、洋上でエネルギーを創って陸に届ける、グリーン水素製造・輸送船を開発しています。当社は2025年4月から10月に開催予定の大阪・関西万博に出展し、未来社会における新しい船の可能性を紹介します。



2025年春頃就航予定LNG燃料フェリー「さんふらわあ びりか」

REPORT 2

地域主導でプロジェクト進行、各地でFSRU 傭船契約やオフィスビル開発

当社グループは「グローバルな社会インフラ企業への飛躍」を経営計画に掲げ、「地域戦略」を主要戦略の一つとして定め、取り組んでいます。世界の主要な経済圏を臨むエリアで、当社の各地域組織が意思決定、事業開発、運営にあたり主体的に役割を果たすことで、世界のマーケットで存在感を発揮していきます。地域戦略を先行して進めてきたインドにおいては海運事業だけでなく、もう一つの主要戦略である「ポートフォリオ戦略」として強化している非海運事業でも新たな取り組みが実りました。グループ会社のダイビルが進めるオフィスビル開発です。さらに、インドをモデルケースとして他の地域でも取り組みを進めている中で、欧州・アフリカ地域ではポーランド国営ガスパイプライン会社と、東南アジア地域ではシンガポール国営LNGターミナル運営会社と、浮体式LNG貯蔵再ガス化設備(FSRU)の長期契約を締結しました。これからも世界の主要経済地域で事業を拡大していきます。



インドでのオフィスビル開発「Atrium Place プロジェクト」の完成イメージ

REPORT 3

人のつながりと創造を生む空間、新社員食堂&多目的施設がオープン

世界各国で事業展開を行い、新たなビジネス基盤を築いていくにあたり、最も重要な資産は優秀な「人財」であると考えています。よい人財の確保・育成に注力している中、持続的な成長とイノベーションを推進することを目的としてさまざまな施策を行っています。2022年に開始したオフィスリノベーションの集大成として、本社ビル15階の社員食堂「Rhine ^{ライン}虎ノ門」を大改装し、2024年4月にリニューアルオープンしました。食事に加えて、打ち合わせやコワーキングスペース、執務の合間のリフレッシュ目的の利用もしやすい空間となりました。また、本社から至近の場所に多目的施設「SANGO」を開所しました。幅広い機能を持った施設に当社グループの多様な役職員が集い、非海運事業を含めた新たなステージへ進むための対話・発想の場として、そして学びや交流を通じた共走・共創の拠点として利用されています。



大海原に浮かぶ船をイメージした「^{ライン}Rhine 虎ノ門」のバーカウンター

本紙にはダイジェスト版の記事を掲載しております。全文はWebでご覧ください。▶



個人投資家様向け動画のご紹介

「成長と安定経営の両立」を目指す商船三井はどのように進化していくのか。当社の現在に至る業績推移から将来に向けた事業開発、投資の事例など、さまざまな側面から当社の成長戦略を分かりやすく紹介しています。株主還元の方針や、株主優待についてもご案内しています。

幅広い皆様楽しんでいただける内容となっていますので、ぜひご覧ください。

商船三井
公式チャンネルにて
掲載中



株主優待制度(商船三井オリジナルカタログギフト)のご案内

商船三井グループが展開するクルーズやフェリー事業にちなんだ各地の名産品等(3,000円相当)をセレクトしたオリジナルカタログから、お好みの商品をお選びいただき、贈呈いたします。2024年はお米やうなぎ等が人気で、多くのご好評をいただきました。2025年には商品数を増やし、さらに充実したラインナップをご提供いたします。船旅で日本中を巡るかのように、お好みの一品を選んでいただけると幸いです。

- 毎年3月末日現在の株主名簿に記載された、当社株式300株以上を2年以上継続保有されている株主様を対象とします。
- 毎年6月開催の定時株主総会終了後に発送する株主総会決議ご通知(6月下旬)に同封してお送りいたします。



カタログイメージ

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
上場金融商品取引所	東京証券取引所

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネットホームページ URL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告の方法	当社ホームページに掲載します。 https://www.mol.co.jp/ ただし、事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載します。



表紙写真

三井 オーシャン フジ
クルーズ船「MITSUI OCEAN FUJI」
(2024年12月就航予定・イメージ図)